

機関番号：17102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2010

課題番号：21730028

研究課題名（和文） 我が国議会制度の形成・運用過程に関する実証的研究

研究課題名（英文） Research on the formation process of Japanese Parliamentary System

研究代表者

赤坂 幸一（AKASAKA KOICHI）

九州大学・法学研究院・准教授

研究者番号：90362011

研究成果の概要（和文）：

本研究では、議会議務局資料の所蔵状況の調査、同資料の分析・目録化作業を行ったほか、所蔵資料を用いた実証的な個別研究を行い、議会官僚たちが議会法制の形成・運用過程において果している主体的な衡量作業を分析することを試みた。あわせて、事務局関係者を対象とするオーラル・ヒストリーを実施し、事務局所蔵資料の作成背景や、『先例集』の作成手法等を具体的に解明することによって、国政運用における事務局機能の解明を試みた。

研究成果の概要（英文）：

This study gives priority to 3 points.

First, as a result of the preliminary survey, a large amount of historical records which were kept by the House of Representatives and the House of Councilors, but have not been disclosed to the public use, were discovered. This study attempts to grasp all the details of these historical documents, and make use of them to elucidate the role of parliamentary bureaucrats in the formation- and operation-process of parliamentary law system.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：法学

科研費の分科・細目：公法学

キーワード：議会、国会法、議会先例、憲法史

## 1. 研究開始当初の背景

衆議院所蔵文書を活用することによって我が国議会制度の形成・運用過程に関する実証的研究を試みる本研究プロジェクトにおいては、まず、両院が所蔵する議会文書の調査・発掘、目録作成・保存作業などが必要となる。すなわち、わが国にはイギリスのような議会アーカイブないし議会文書館が存在

せず、したがって、専門の司書を中心に議会文書を組織的・体系的に公有財産として収集・保存・公開する営為が十分になされてこなかった、という問題を抱えているのである（衆議院事務総長からの聞き取り調査でもこの点が強調されていたことが印象に残っている）。それゆえ、議会文書の管理は各セッションごとの判断、場合によっては担当者

ごとの判断に委ねられることとなっていた。くわえて、従来、国会両議院は情報公開法の適用対象外とされ、その所蔵資料について外部の研究者等が閲覧することは不可能であった。この点、公開制度の整備に向けた試みがあるとも仄聞しているが、未だ実現には至っていない。

こういった事情を踏まえて、本研究プロジェクトは、両院事務局が所蔵する資料を整理・公開するとともに、同資料を用いた実証的な個別研究を行うことを目的として開始されたものである。

## 2. 研究の目的

本研究は、衆議院事務局が所蔵する議会先例・議事法研究に係る未公開資料群、および国会法・議院規則の立案過程に関わる未公開資料群を活用することによって、従来全く未解明の状態におかれてきた、衆議院事務局による『先例集』『先例彙纂』(議会先例)の形成・運用過程を解明することを目的とする。また、それとともに、国会法・議院規則の制定・運用の在り方を明らかにすることを通じて、我が国の国会法・議事法が内包する特質・問題状況を明らかにすることを、主たる目的とする。

その際、従来の公法学や政治学では研究領域の隙間に置かれていた「議会官僚」達の主体的な衡量作業の存在に着目し、その衡量過程を歴史的・実証的に解明すること、および、その営為を理論的に位置づけることを試みた。

## 3. 研究の方法

数次にわたる予備調査の結果、国会議事堂内にある衆議院議事部の三つの倉庫、および参議院事務局倉庫に、画期的意義をもつ未公開資料群が遺されていることが確認された。そこで本研究では、まずそれらの全貌を早急に把握し、その整理・保全作業を行うこととした(【事務局資料の整理・保存】)。

また第二に、本研究においては、議院規則や国会法、議会先例の全体から構成される「議事法」ないし「議会法制」の形成・運用過程を、上述の未公開資料群を利用しつつ実証的に解明することを試みた。その際、先例の形成過程や議会法規の運用に際して議会官僚たちが営む主体的な衡量作業の存在を解明すること、および、かかる衡量作業やその所産に理論的な位置づけを与えることを試みることにした(【個別の実証研究の遂行】)。

第三に、資料の整理・保全を進める中で、とくに重要な史料的价值をもつものについては、一般に広く利用できる共有財産として提供するため、出版作業をすすめることとし、両議院の事務局関係者とも調整のうえ、一定

の史料を書籍化し、あるいはそのための予備的作業を開始することとした(【重要資料の出版準備】)。

第四に、衆議院事務局所蔵の膨大な資料群の中には、議事部在任中に行った調査結果を個人的にまとめた形のものや、今日では作成経緯が必ずしも明らかでない資料も少なからず存在し、それらの整理・分析を進めるためには、資料作成当時の状況を事務局関係者から聴取する必要が存した。

また、上述したように、議会法制の立案・運用過程における議会官僚達の衡量作業を明らかにし、ひいては議会事務局の国政上の機能を解明するという観点からも、事務局関係者への取材は欠かせないものと考えられた。そのため、本研究では、議会事務局関係者体系的な聞き取り調査を行い、その記録を将来的な研究資源として保存・公開するため、オーラル・ヒストリー・メソッドを採用することとした。今野・前衆議院議事部副部長、近藤・前衆議院事務次長、佐藤・前参議院委員部長など計7名を対象とするオーラル・ヒストリーを実施することとした(【事務局関係者へのオーラル・ヒストリーの実施】)。

## 4. 研究成果

### 事務局資料の整理・保存

第一の点については、連携研究者および研究補助者と共に衆議院事務局の地下倉庫および参議院事務局倉庫に入り、未整理資料の整理・保存作業を行った。両議院の事務局倉庫共に、帝国議会期の文書と国会移行後の文書とが乱雑に入り混じり、しかも性格を異にする多数の資料が一つの封筒の中に未整理のまま放り込まれるなど、重複の把握を含む整理作業自体が極めて困難であった。

基本作業を終えた後には、公開対象資料と非公開資料(国会移行後の諸文書やブライヴァシー関連資料、削除議事録など)との区分け、重要資料の判定、クリーニング作業を実施し、かつ一部の重要資料で個別の実証研究に利用することが期待されるものについては、デジタル撮影を行った。

以上の作業を前提として、整理・分析の終了した衆議院事務局側の憲政資料のうち、議会先例や国会法・議事規則等に関する重要なものにつき、包括的な目録冊子を作成し、機関レポジトリを通じて公開した(<http://hdl.handle.net/2324/17762>)。

とりわけ、『衆議院先例彙纂』の作成背景を示す諸資料の発掘・整理・公開によって、今後の議事法研究の基盤を確立したことは、特筆に値する。稿者じしん、先例集ないし議会先例の形成・運用過程の研究を進めているが、議会法学に関する関心が低かったわが国公法学において、新たな研究領域の基盤を形成し得たものと自負している。

ともあれ、以上の作業によって、今後の新たな憲政史研究の基盤が構築されたほか、今後の調査・研究を要する新たな資料群の発掘をみるなど、研究基盤の飛躍的な拡充を実現することができた。このような幸福すぎる事情の故に、本研究作業の大半は、憲政資料群の価値評価、分析、および仮目録の作成等に費やされることとなった。

例えば、貴族院の動きを如実に示す『貴族院彙報』の全体像を解明しうる資料群や、国会法、議院規則、および議院先例の制定・改廃の背景を示す諸資料等がそれにあたる。『貴族院彙報』は、帝国議会時代の貴族院の動向を理解するために必須の文献であるにもかかわらず、いくつかの事なった性格の文書が混在しているほか、アド・ホックに刊行される号も多く、かつまた全体像が必ずしも判明していなかった。加えて、国会図書館をはじめ、『貴族院彙報』を体系的・網羅的に保存・公開している公的機関は存在していない。

今後は、このような基礎的資料群の調査・分析や、必要に応じて資料集の刊行作業が必要になると思われ、具体的な編集・刊行作業に着手しているところである(重要資料の出版準備)。

#### 個別的な実証研究の遂行

こういった資料を用いた実証的研究としては、まず、国会法・議院規則の制定過程の解明に関する調査を行ったほか、その一環として、従来の事務局の国会法解釈・先例作成の基盤ともなっている『逐条国会法(全7巻)』の分析・出版準備を行い、最終的には、2009年12月現在までの改正を取り込んだ『補巻』を含む全8巻の浩瀚な実務資料集を刊行することができた。

さらに、事務局関係者からの聞き取り調査や、横浜開港資料館・神戸市文書館・個人宅などに散在している帝国議会期の議会官僚たちの個人文書(例、小野寺五日記(個人蔵)、齋藤浩躬関係文書(神戸市文書館))を活用することによって、議会官僚たちが議会法制の形成・運用過程 なかんずく『先例集』『先例彙纂』の編纂過程 において営んでいる主体的な衡量作業を解明する試みを行った。その成果は、赤坂幸一「統治システムの運用の記憶 議会先例の形成」レヴアイアサン 48号(2011年)46頁以下として公表されている。

その際、社団法人・尚友倶楽部および参議院事務局文書課に遺されている元貴族院書記官長・参議院事務総長の小林次郎氏旧蔵文書のほか、大正14年の火災を免れた議院規則制定関係の資料群や、戦後の第1国会・第2国会の経験にかんがみて大幅な修正が行われた昭和23年の国会法改正経過に関する立

案資料などを活用しつつ、従来未解明の状態に残されてきたわが国の議会法制の形成過程の源流を、一定程度解明することが出来た。

くわえて、事務局の内部検討資料をも利用した解散権論争に関する論文を公表したほか(赤坂幸一「解散の原理とその運用」初宿先例遺稿記念論文集、2010年、141頁以下)、議会先例などによって形成される我が議院内閣制の運用上の諸問題について、韓国における議院内閣制導入論への批判的視座より検討した論考を公表した(赤坂幸一「日本における議院内閣制の運用上の諸問題」江原法学32号(2011年)89~109頁)。

#### 事務局関係者へのオーラル・ヒストリーの実施

本研究では、さらに、議事法や調査資料の作成過程に携わった事務局関係者からの聞き取り調査を行うことによって、議事法運営の実務状況を明らかにする作業を行った。それはまた、これまで検討してきたような事務局所蔵資料の中には、事務局在任中に行った調査結果を個人的にまとめた形のものや、今日では作成経緯が必ずしも明らかでない資料も少なからず存在し、それらの整理・分析を進めるためには、資料作成当時の状況を事務局関係者から聴取する必要があるからでもある。

対象者としては、両院事務局の事務総長経験者を中心に7名のご協力を得て、現在までに3名のオーラル・ヒストリーが終了している。全17回・全15回・全10回という質量共に充実したオーラル記録であるが、その実施に際しては、単に資料の保存・運用・利用形態や議事法の形成・運用過程のみならず、事務局の歴史やマネジメントまでを含む総合的な知見が得られるよう、質問事項やインタビュー手法に工夫を加えた。

その成果は、『佐藤吉弘オーラルヒストリー』(2011年)、『近藤誠治オーラルヒストリー』(2011年)、『今野彥男オーラルヒストリー』(2010年)として刊行されているほか、少なくともあと2名の報告書の刊行が予定されており、また、今野氏のものについては『国会運営の裏方たち 衆議院事務局の戦後史』として、また近藤氏のものについては『立法過程と議事運営 衆議院事務局の三十五年』として、近日中に民間出版される予定である。

こういった試みは従来殆ど存在せず、議会事務局から見た議事法・議事運営・議会政治というもの、あるいは事務局のマネジメントや資料管理・分析、調査作業の遂行の在り方など、従来の研究領域のはざまに位置する部分について、新たな研究分野・関心を構築してゆくための基盤を形成することができたことが、本研究の大きな収穫となっている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

赤坂幸一「統治システムの運用の記憶  
議会先例の形成」レヴァイアサン、査読無、  
48号、2011年、46～71頁

赤坂幸一「日本における議院内閣制の運用上の諸問題」江原法学、査読無、32号、2011年、89～109頁

赤坂幸一「事務局の衡量過程のÉpiphanie」逐条国会法第1巻所収、査読無、2010年

奈良岡聰智・赤坂幸一・若月剛史・近藤秀行・鈴木敦「帝国議会期文書仮目録」衆議院事務局資料、査読無、2010年、1～26頁

[学会発表](計2件)

赤坂幸一「『逐条国会法』と憲法習律・議会先例」「衆議院事務局の未公開資料群に基づく議会法制・議会先例と議院事務局機能の研究」第2回研究会、2010年3月20日、駒沢大学会館246(東京)

赤坂幸一「フランス公法学と憲法習律・議会先例」慶応大学フランス公法研究会、2010年2月21日、慶応大学

[図書](計4件)

佐藤吉弘(著) 赤坂幸一・奈良岡聰智(編著)『佐藤吉弘オーラルヒストリー』2011年、311頁

近藤誠治(著) 赤坂幸一・奈良岡聰智(編著)『近藤誠治オーラルヒストリー』2011年、404頁

大石真ほか(編:共著) 成文堂、『各国憲法の差異と接点』2010年、141～162頁

今野或男(著) 赤坂幸一・奈良岡聰智(編著)『今野或男オーラルヒストリー』2010年、442頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

赤坂 幸一 (AKASAKA KOICHI)  
九州大学・法学研究院・准教授  
研究者番号: 90362011

(2)研究分担者: 該当せず

( )

研究者番号:

(3)連携研究者: 該当せず  
( )

研究者番号: